

## 特集：大学説明会

## 大学説明会の運営に参加して

鈴木 裕理奈（筑波大学 生物学類 1年）

午前中の、会場への案内は順調に行えたと思います。生物学類に来た生徒さんたちは特に迷わなかったようですが、他学類の生徒さんたちの迷子が多かったので、その生徒さんたちを助けてあげる対策（本来行きたいところへ誘導してあげるための分かりやすい道順をみんなで確認しておいたり・・・）も考えておいたほうが、親切なのかなあと感じました。

午前中の誘導が終わってから先生方の説明が始まると私たちは仕事がなくなってしまい、各々自由に行動していたのですが、そのまま昼休みになってしまったので、旗の移動をするときの連絡がスムーズに行かなかったり、少しややこしい状況になっていました。反省会のときに先輩も意見なさっていたのですが、昼休みあたりの使い方（お仕事の分担など？）も、もう少し決めておいたほうがいいと思いました。

午後の研究展示では、私は南側案内所にいたのですが・・・かなり暇でした。そもそも多くの人が入り出る北口からエレベーターをとおって南口まで来る人はなかなかいませんでした。それは相談所も同じことで、南口案内所の向かい側に相談所の入り口があるよりも、模擬講義を行っていた部屋のほう（通路側）

に入り口を作ったほうがもっと入りやすかったのではないかと思います。

配布資料の数も、飲み物の量も、北口のほうを多めにしたほうがいいと思います。

また、これは何人かの生徒さんとお話して感じていたのですが、生物と生物資源の違いがよく分からないと感じている人が多いようです。実際私も、高校時代はうまく分かりませんでした（もちろん今もうまく説明できませんが・・・）。そのような人たちにより分かりやすく説明してあげられるように、資源と比較できるような具体的な資料みたいなものを用意できたらいいのではないかと思います。でも学類を越えて準備したりするのはなかなか難しいことだと思います。そのような時はせめて、事前にスタッフでそのようなことを話し合っておいたり、質問されそうなこと（たとえば昨年質問されてうまく答えられなかったこと）をきちんと答えてあげられるように、前もって考えておくのは大切なことだと思います。

Communicated by Shinobu Satoh, Received August 17, 2007.